

あべともこニュース

号外
立憲民主
RIKKEN MINSHU

今守るべきは、人道、いのち、暮らし!!

◆ハンセン病隔離の過ちに歴史検証を

3月13日、厚生労働委員会でハンセン病対策について武見厚労大臣に質問をしました。国立ハンセン病療養所は全国に13カ所、入所者の数は年々減少して810人、平均年齢は88歳です。病気と隔離政策が取られていた当時の強制作業で入所者の多くに重複障害があり、医療、看護、介護は欠かせません。政府の公務員定数合理化計画による厳しい状況を質すと大臣は「必要な定員は確保していく必要がある」と答弁。重ねて療養の確保を求めました。

次に園内に併設されている社会交流館の充実と存続について質問。1月に視察した菊池恵楓園(熊本県)では、近年、患者身分帳、骨格標本、解剖録などが大量に見つかり、その記録、検証、保存が大きな課題です。隔離政策による人権侵害を二度と繰り返さないために入所者の皆さんの意見と歴史検証が必要。特化した予算と専門性を確保した学芸員の増強を訴えました。

◆即時停戦と行き渡る支援を。

12日、「超党派人間の安全保障外交の推進を考える議員有志の勉強会」は、パレスチナ支援に関わる国際関係機関ヒアリングを開催。UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)への拠出再開を含めて、支援体制のあり方が再確認されました。

WFP(国連世界食糧計画)、UNICEF(国連児童基金)をはじめ参加した7団体からは支援体制が整えられてはいるものの、イスラエル軍による検閲、無差別攻撃等で物資搬入が滞っている。

これでは、必要な人に必要な支援が行き届かないと指摘。一刻も早く改善されないと飢餓・感染病等の蔓延により命が失われると警鐘。日本政府は、この現状を再認識し、UNRWA支援を即断すべきです。

◆地震と原発の共存は不可。

16日、憲法フォーラム「地震と原発―原発を止めた裁判長 樋口英明」を開催。14年5月に関西電力大飯原発3・4号機の運転禁止を命じる判決を下し、15年には高浜原発3・4号機の再稼働差止の仮処分を決定した樋口さんは、この国の司法も政治も「原発の真の危険性について審議していない」と指摘。地震動の大きさを加速度で示す「ガル」については、事業者も国の基準も非現実的、地震災害の前で原発の「絶対」はあり得ないとお話しいただきました。

22日には、超党派「原発ゼロ・再エネ100の会」で能登半島の被災状況と志賀原発を視察。避難計画の限界が明らかになっていきますが、2003年までの28年間、原発立地計画が進められた珠洲では被害、海岸の隆起が深刻でした。ここに原発があったら、誰が住民を守るのか：雄大な自然、人間の営みを崩壊させる原発安全神話は過去のこと。原発ゼロは今こそ必要です！



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区(藤沢市・寒川町) 当選8回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともこ子どもクリニック(湘南台)理事長 現在、厚生労働委員会 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
公式X (旧Twitter)
@abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ事務所
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ 検索

あべともこ後援会入会及び、ボランティアスタッフ募集中!



北野進さん、くしぶち議員と 背景：隆起した高屋海岸